

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
委託業務実績報告書（令和6年度）

1. プログラム名：	学術知共創プログラム
2. 研究テーマ名：	人口動態予測に基づく空間格差の解消に向けたシナリオ
3. 研究代表者氏名・所属・職：	蕭 耕偉郎 東京大学・大学院工学系研究科・准教授
4. 研究期間：	令和6年7月1日～令和12年3月31日

5. 報告年度における当初研究計画（2頁以内）

応募内容提案書に記載した研究計画について、本プログラムの趣旨及び課題の内容を念頭に置いて、報告年度において、何を、どのような方法を用いて、どこまで明らかにしようとしたか、具体的かつ明確に2頁以内で記述すること。なお、研究の進捗に応じ応募内容提案書から変更した部分があれば理由とともに明記すること。

令和6年度の当初計画については、以下の通りである。

a. 「理論班」による文献調査と理論的枠組みの提示：理論班の最初のタスクは、「空間格差」の理論構築に向けて、本研究チームによる今までの研究蓄積ならびに既往文献の調査・レビューを通じ、「世代継承要因」と「地域条件要因」の理論的背景ならびにその形成メカニズムの解明に向けた必要な理論的枠組みや、その検証のための必要となるデータ収集に関する全体像の提示を進める。

理論班のタスクの実施状況については、これまで特に地域条件要因について、公共交通の拡張によるジェントリフィケーションやそれに伴う空間格差の発生メカニズムについて、一連の文献レビューを行ってきた。世代継承要因についても同時並行に進めており、理論的枠組みの整理がほぼ予定通りに進捗しているが、その精緻化が次年度の課題になる。

b. 「政策班」による理論的枠組みを踏まえた政策分析：政策班の最初のタスクは、理論班が提示した理論的枠組みを踏まえて、政策面の現状を把握することにより、理論構築に向けた検証のための骨組みを確認する。まず、日本の国策ならびに三大都市圏などの自治体政策に着目して、「開発国家と新自由主義のハイブリッド型政策」のもとで展開された都市計画、住宅、地域経済や産業、社会福祉や金融資産の関連政策動向について資料収集し、テキスト分析を行う。更に、政府関係機関、研究者、NPO、住民組織等へのヒアリング調査を通して、各政策が世代継承要因／地域条件要因に、どのような度合いとプロセスで影響したか／しなかったかについて分析する。

政策班のタスクについては当初予定より遅れている。その理由としては、政策分析は、理論班に枠組みの提示を踏まえる必要があるため、理論班の次年度における理論的枠組みの精緻化をもって、本格的に政策分析に関する一連の作業を展開する予定となっている。

c. 「人口班」による人口動態予測のための基盤情報整備・時空間クラスタリング：本研究の展開上に不可欠となる「人口動態解析」を行うための基盤情報となる時空間データの整備

として：①各対象都市の現状を把握して、将来に向けた予測のため、人口動態推計を中心とした広域的な時空間データの基盤となる「地図情報」の整備、②各対象となるフィールドの人口動態予測を行うための人口に関する統計データベースを GIS (Geographic Information System) ソフトウェア上で構築すること。③基盤情報となる時空間データを踏まえて対象都市の全国の中における位置づけを明らかにする。

6. 報告年度における研究の進捗状況・成果及び波及効果（4頁以内）

報告年度における研究の進捗状況・成果及び波及効果を、以下の点を含めながら、具体的かつ明確に4頁以内で記述すること。

- ・本事業の趣旨及び当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか。
- ・具体的な研究成果及びそれらのどのような点が先導的であるか。
- ・未来社会が直面するであろう諸問題に係るどのような応答を研究成果として提示できているか。
- ・人文学・社会科学と自然科学の双方に学術的視野の広がりをもつ人材の育成にどのように寄与しているか。
- ・研究成果をどのように公開・普及させているか。
- ・研究成果及びその普及によって、学術や社会の発展へどのように寄与しているか。
- ・研究成果の発表・発信状況。（主な学術論文、学会発表、著書、産業財産権、招待講演、ホームページ、主催シンポジウム、一般向けのアウトリーチ活動等。ただし本報告書提出までに掲載等が確定しているものに限る。なお e-Rad に入力した分はここに記載する必要はない。）

本研究は、課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業の趣旨及び当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展している。まず、初年度では多くの大学、分野、年代や立場の研究者を横断した研究ネットワークと議論の場を着実に構築してきた。また、研究代表者、分担者を中心に、国内外の幅広い研究機関に所属する研究参加者も巻き込んで、複数回の研究会を推進してきたことから、初年度の波及効果は大いに評価できる。特に、研究代表者、分担者などの研究室に所属する学生も複数、本研究に参加しながら、自身の卒業論文や研究テーマとして発展させてきた初年度の状況を考慮すると、次世代の研究者の育成に向けての段階的な成果としても認められる。

研究成果の先導性について、まず初年度で主なタスクである「人口班」による人口動態予測のための基盤情報整備について、1990年代からの国勢調査と経済センサス関連のメッシュデータを導入しつつ、班内の各メンバーの専門性や他のグループの議論などを踏まえて論点を整理し分析の方針に関する議論を進めてきた。その際、将来の人口動態予測は、社会増減の考慮に限らず、対象とする空間のスケール、クラスタリングの目的などをどう設定すべきか、更に地域幸福度指数を導入することにより、単純に人口の増減を予測するだけではなく、「幸福度の高い人口をいかに増やせられるか」という議論に寄与し、これまでの人口減少社会に直面する中での悲観的な将来予測に新たな切口と論点を提示することが期待される。

未来社会が直面する諸問題への応答を研究成果として提示できる一例として、「世代班」による世代継承要因の分析と解明のタスクでは、出生地や住宅所有などの個人の属性要素間の関係のクロス集計を踏まえて、親世代との同居の有無、親世代の資産・所得、親世代所有の住宅などから子世代の住宅所有を説明する世代継承要因ロジットモデルを構築し、世代継承要因に関し、親世代の影響度合いを点数化した結果を地理空間情報システム上で可視化するなど一連の流れを想定している。これにより、将来発生しうる空間格差やその背後のメカニズムである世代継承要因を可視化することにより、それぞれの小地域、自治体、都道府県に取るべき対策をより明確に検討できる手がかりを提示することが可能になる。

本研究は、人文学・社会科学と自然科学の双方に学術的視野の広がりをもつ人材の育成にも中長期的に寄与することが期待できる。例えば、「地域班」では人口動態に関連した空間格差の現状分析を目的とした研究対象地域の選定に向けた基盤データ整備および指標作成を検討し、主なメンバーがそれぞれ、以下のような方向性からの進捗が報告されている：

- 小柳先生：社会統計データに基づく整備・指標作成／アクセシビリティデータ検討

- 上杉先生：不動産データからみた社会経済的セグリゲーション変化
- 鎌倉先生：交通インフラと経済的地域空間分析／地域間における産業立地政策
- 高取先生：首都圏を中心とした人口増減に関する空間分析
- 澁谷先生：人流データ等を用いた都市空間における行動変容
- 米澤先生：リモートセンシングデータの活用検討

特に、小柳先生は経済学部、上杉先生は社会環境学部、鎌倉先生は教養学部、高取先生は芸術工学部、澁谷先生は情報学環、米澤先生は工学部など、それぞれが異なる文理を横断する部局に所属し、多様が学生を巻き込んで研究に取り組んでいる。そのため、各研究分担者の研究室などに所属し、本研究に参画する学生たちや若手研究者も、おのずと人文学・社会科学と自然科学の双方に学術的視野の広がりを持つ人材として育つことが予見できる。

研究成果の発表・発信状況について、初年度の主な学術論文を以下の通り抜粋する。なお、本研究による初年度に開催した国際セミナー・シンポジウムのポスターも併せて掲載する。本研究に関連する掲載済みの研究成果をまとめる。二重下線は研究代表者、下線は研究分担者または参画者、*は責任著者を示す。

- 1) Xizi Xu, Jue Ma, Kojiro Sho, Fumihiko Seta (2025). Urban Growth Divides: The inevitable structure of shrinking cities in urbanization evolution. *Cities*, 158, 105638. <https://doi.org/10.1016/j.cities.2024.105638>
- 2) Yi Wu, Tianyao Shen, Yifan Li, Mizuki Kita, Yoshikuni Yoshida, Kojiro Sho, Lang Yuan, Ling Yu, Renhe Jiang, Yin Long (2025) Exploring urban railway station-based attractiveness considering demographic-specific demands: Case study of Odakyu line, Japan. *Cities*, 158, 105620. <https://doi.org/10.1016/j.cities.2024.105620>
- 3) Xingcan Zhou, Kojiro Sho*, Hongfei Qiu, Shenglin Chang, Qingya Cen (2025). Association between exposure to urban neighborhood natural environments and human health: A systematic review of multiple exposure indicators. *Environmental and Sustainability Indicators*, 25, 100548. <https://doi.org/10.1016/j.indic.2024.100548>
- 4) Lang Yuan, Kojiro Sho*, Sunyong Eom, Hayato Nishi, Daisuke Hasegawa, Han Zhao, Takashi Aoki, Jiarui Zhu, Kaoru Matsuo, Akinobu Masumura (2024). Changes in visitor behaviour across COVID-19 pandemic: Unveiling urban visitation dynamics and non-linear relationships with the built environment using mobile big data. *Habitat International*, 154, 103216. <https://doi.org/10.1016/j.habitatint.2024.103216>
- 5) Xizi Xu, Jue Ma, Kojiro Sho, Fumihiko Seta (2024). Are East Asian “shrinking cities” falling into a loop? Insights from the interplay between population decline and metropolitan concentration in Japan. *Cities*, 155, 105445. <https://doi.org/10.1016/j.cities.2024.105445>
- 6) Sunbin Yoo, Junya Kumagai, Kojiro Sho*, Shunsuke Managi (2024). Impact of high-speed railway on gentrification and regional inequality in Japan. *Transportation Research Part D: Transport and Environment*, 134, 104346. <https://doi.org/10.1016/j.trd.2024.104346>
- 7) Ryo Fukuda, Kojiro Sho*, Tetsuo Kidokoro, Hwajin Lim (2024). Inheriting housing

inequality: Parental homeownership and place of origin as key factors for homeownership in Japanese metropolitan areas. Cities, 150, 105064. <https://doi.org/10.1016/j.cities.2024.105064>



東京大学工学部 都市工学科
東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻
Department of the Urban Engineering, The University of Tokyo

国 際 研 究 室
地 域 計 画

This lecture is supported by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) [Grant Number: JPJS00124016566].

Dr. Eng. Kusumaningdyah Nurul Handayani, S.T., M.T.

Head of Urban Rural Design & Conservation Laboratory (URDC)
Department of Architecture, Faculty of Engineering
Universitas Sebelas Maret Surakarta

Time: 15:00-16:30 26th July (Friday)
Venue: Room 802, UTokyo
Building No 14 of School of Engineering



**Will Urban Slum Rehabilitation Districts Revert to Slum States?
A Field Survey of
Transitioning Alleys in Surakarta City, Indonesia**

2024 年 7 月 26 日 (金) 本研究の海外研究参画者 Dr. Eng. Kusumaningdyah N. H., ST., MT を
招いた東京大学本郷キャンパスにて開催の国際セミナーの告知ポスター

国際シンポジウム

交通インフラと人口動態、空間格差との相互メカニズム

International Symposium on the Interactive Mechanism between Transportation

Infrastructure, Population Dynamism and Spatial Inequality

JSPS 学術知共創プログラム「人口動態予測に基づく空間格差の解消に向けたシナリオ」

第 5 回全体会議兼公開研究会

開催日時：2025 年 3 月 5 日（水）13 時 00 分～17 時 30 分

開催会場：東京大学本郷キャンパス

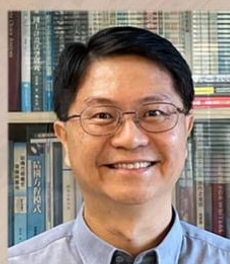
工学 11 号館 HASEKO-KUMA HALL 講堂

定員 100 名、右側から無料にてお申込ください。



馬奈木 俊介教授

九州大学大学院
工学研究院 都市システム
工学講座 教授
九州大学
都市研究センター長
主幹教授
基調講演
「インフラストラクチャー評価モデル」



Prof. Jen-Jia Lin

（林 楨家教授）

Professor, Department of Geography,
National Taiwan University,
Taipei, Taiwan

Keynote Speech

“Long-term evolution of
transit-induced gentrification:
Evidence from London and Tokyo”

（国立台湾大学地理学系 地理環境資源学科）

プログラム

- 13:00 ～ 13:10 開催のご挨拶・趣旨説明（蕭 耕偉郎 研究代表者・東京大学・准教授）
- 13:00～14:00 基調講演「インフラストラクチャー評価モデル」（馬奈木 俊介 九州大学・教授）
- 14:00 ～ 14:10 質疑応答
- 14:10～15:00 基調講演「Long-term evolution of transit-induced gentrification: Evidence from London and Tokyo」（林 楨家 国立台湾大学・教授）
- 15:00 ～ 15:10 質疑応答
- 15:10 ～ 15:20 休憩
- 15:20 ～ 15:40 「理論班」進捗報告（劉 雨迪 早稲田大学先端社会科学研究所・助教）
- 15:40 ～ 15:50 質疑応答
- 15:50 ～ 16:10 「人口班」進捗報告（瀧澤 重志 大阪公立大学生生活科学研究院・教授）
- 16:10 ～ 16:20 質疑応答
- 16:20 ～ 16:30 「地域班」進捗報告（米澤 剛 大阪公立大学工学研究院・教授）
- 16:30 ～ 16:40 質疑応答
- 16:40 ～ 17:00 「世代班」進捗報告（福本 拓 南山大学人文学部・教授）
- 17:00 ～ 17:10 質疑応答
- 17:10 ～ 17:30 全体討論・閉会

主催：東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻国際都市計画・地域計画研究室
共催：九州大学都市研究センター
後援：日本学術振興会



2025 年 3 月 5 日（水）東京大学本郷キャンパスにて開催の国際シンポジウムの告知ポスター
（第 5 回全体会議兼公開研究会）

7. 今後の研究の推進方策（2頁以内）

研究目的を達成するための報告年度翌年度以降の本研究テーマの推進方策について、年度別に分けて、具体的かつ明確に2頁以内で記述すること。

令和7年度

まず、令和6年度の当初計画から若干の遅れが発生している a.「理論班」による文献調査と理論的枠組みの提示および b.「政策班」による理論的枠組みを踏まえた政策分析については、より効率的に推進することとする。

c.「人口班」による人口動態予測のための基盤情報整備・時空間クラスタリング（続き）：以上に整備した空間・人口に関する1980年代から2020年までの時系列データを踏まえて、対象地域を抽出する時空間クラスタリング分析を行った上、各クラスターのベンチマークとなる地域が日本全国から見た位置づけを確認する。

d.「地域班」による研究対象都市の抽出・現地調査実施：「空間格差」を検証するにあたっての対象となる都市の抽出を行う。空間格差について、まず【地域条件要因】の観点から、その典型的な事象である「ジェントリフィケーション」（Gentrification）に着目し、対象都市の各区における国勢調査小地域ごとに可視化することにより、中心部・郊外部におけるジェントリフィケーションの傾向を把握することで、（第一象限に属する小地域の割合が一番高い）対象とすべき都市を抽出する。また、こういったプロセスにより、まず「地域内格差」（同じ市内の異なる区同士、または同じ区内の異なる町丁目同士）を明らかにして、その空間構造をGIS上で可視化する。

令和8年度

e.「世代班」による対象都市における世代継承要因の実態解明：世代班は以上に抽出した都市を対象に、20代から60代を含む現役世代を対象にウェブアンケートを調査する（1都市につき500サンプル程度）。アンケートは回答者の出身地や親世代の持ち家、資産状況と、回答者の住宅居住歴、所有歴や資産状況との関係に関するものである。

f.「地域班」による対象都市における地域条件要因の実態解明：以上に抽出した都市を対象に、2000～2020年までの間を設定して、まず国土数値情報データベースから交通インフラに関する情報、地価データを取得する。次に、都市レベルの社会経済データ（課税所得と人口）は総務省が提供する社会・人口統計システムから取得する。これらの地域空間情報データから、各対象都市における地価、所得、年齢・世帯構成別人口の分布などに係る空間格差の5年単位の推移と現状をGIS上で可視化する。

g.「人口班」による人流データ・LWC指標を組み合わせた人口動態予測モデル構築：対象地域として抽出する各都市の町丁目単位を中心にメッシュ等の将来人口推計データを整備し、本研究による独自の推計モデルの開発・実装を行う。

令和9年度

f.「地域班」による対象都市における地域条件要因の実態解明（続き）：交通インフラの拡張による空間格差を「経済面」および「環境面」から探求を試みる。

g. 「人口班」による人流データ・LWC 指標を組み合わせた人口動態予測モデル構築（続き）：第4年度は、より現実性を持った人口動態予測を行うため、ポイント型流動人口データや Liveable Well-Being City (LWC) 指標データも変数として実装して人口動態予測モデルの構築に挑む。

令和10年度

h. 「政策班」「世代班」による将来人口動態を踏まえた世代継承要因のシナリオ検討：「人口班」が構築した人口動態予測モデルに基づいて予測した各対象都市における2040年、2050年、2060年時点の予測人口を、「世代班」が構築した子世代の持ち家や資産形成を説明する「世代継承要因ロジットモデル」に導入し、各対象都市における持ち家や資産形成の状況を数値化して、それぞれGIS上でレイヤーを設けることにより、世代継承要因のシナリオの可視化を図る。最後に可視化の結果を踏まえて、世代継承要因から空間格差の解消に向けた人口、住宅、金融政策、都市政策面における解決策を検討する。

i. 「政策班」「地域班」による将来人口動態を踏まえた地域条件要因のシナリオ検討：第3年度に構築したMAを中心に据えた「地域条件要因回帰モデル」を利用して、今後の交通インフラ拡張のシナリオを踏まえた検討を進める。日本では現在、「リニア中央新幹線」計画が着実に推進されており、東京～名古屋間は2034年までを目途に開業する予定である。そのため、将来的には新幹線ネットワークの拡張により、沿線地域とそれ以外との空間格差がより一層拡大することが予想される。

本研究では、こうした交通インフラの拡張に伴い、交通インフラ整備沿線地域と非沿線地域との間における(1)人口移動、(2)大卒者・専門職および技術者部門などホワイトカラー層、(3)高層建築物、(4)地価、など各指標の増減幅を試算し、空間格差の将来シナリオを明示する。また、地域条件要因のシナリオの可視化を踏まえて、地域条件要因から空間格差の解消に向けた都市計画、経済開発、交通インフラ政策における解決策を検討する。

令和11年度

j. 「理論班」「政策班」による理論化と対象都市の特性に応じた空間格差解消の方策提示：最終年度では「理論班」が提示した理論的枠組みについて、各対象都市における人口動態予測を踏まえ、現状の空間格差の実態と将来予測を統合して理論化を進めるとともに、「政策班」による各都市の実態に対応した「人口動態を見据えた空間格差の解消方策」の整理や提示を試みる。

各対象都市における関係者、研究代表者、研究分担者、研究参画者による合同研究会を複数回開催し、俯瞰的に本研究の成果を取りまとめる。同時に、国内の関連学会において最終段階としての研究発表を行うとともに、国際シンポジウムを開催し、国内外の研究者との幅広い議論を展開し、議論を積み重ねることにより、学術知としての精緻化を目指す。本研究で得られた成果を論文や書籍として出版するとともに、研究報告電子媒体や本研究のホームページを通じて多言語による発信を行う。

研究成果報告

年度	2024 年度
配分機関名	独立行政法人日本学術振興会
制度名	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
事業名	学術知共創プログラム
公募名	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（学術知共創プログラム）
課題ID	24016566
課題名	人口動態予測に基づく空間格差の解消に向けたシナリオ

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)	発行年	2025 年	査読有無	有
論文課題	Are Urban Renewal Projects in Taipei City Transit Oriented?				
著者名	Kojiro Sho, Jiarui Zhu				
雑誌名	JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW				
巻	8	掲載ページ (開始)		掲載ページ (終了)	
掲載論文DOI	10.1002/2475-8876.70016				
その他識別番号	10:WOS:001436929900001				
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)			発行年	2025 年	査読有無	有
論文課題	Association between exposure to urban neighborhood natural environments and human health: A systematic review of multiple exposure indicators						
著者名	Xingcan Zhou, Kojiro Sho, Hongfei Qiu, Shenglin Chang, Qingya Cen						
雑誌名	Environmental and Sustainability Indicators						
巻	25	掲載ページ (開始)	100548	掲載ページ (終了)			
掲載論文DOI	10.1016/j.indic.2024.100548						
その他識別番号							
掲載確定		国際共著		オープン アクセス			
備考							

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)			発行年	2025 年	査読有無	有
論文課題	Urban Growth Divides: The inevitable structure of shrinking cities in urbanization evolution						
著者名	Xizi Xu, Jue Ma, Kojiro Sho, Fumihiko Seta						
雑誌名	Cities						
巻	158	掲載ページ (開始)	105638	掲載ページ (終了)			
掲載論文DOI	10.1016/j.cities.2024.105638						
その他識別番号							
掲載確定		国際共著		オープン アクセス			
備考							

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)			発行年	2024 年	査読有無	有
論文課題	Changes in visitor behaviour across COVID-19 pandemic: Unveiling urban visitation dynamics and non-linear relationships with the built environment using mobile big data						
著者名	Lang Yuan, Kojiro Sho, Sunyong Eom, Hayato Nishi, Daisuke Hasegawa, Han Zhao, Takashi Aoki , Jiarui Zhu, Kaoru Matsuo, Akinobu Masumura						
雑誌名	Habitat International						
巻	154	掲載ページ (開始)	103216	掲載ページ (終了)	103216		
掲載論文DOI	10.1016/j.habitatint.2024.103216						
その他識別番号							
掲載確定		国際共著		オープン アクセス			
備考							

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)			発行年	2024 年	査読有無	有
論文課題	Are East Asian “shrinking cities” falling into a loop? Insights from the interplay between population decline and metropolitan concentration in Japan						
著者名	Xizi Xu, Jue Ma, Kojiro Sho, Fumihiko Seta						
雑誌名	Cities						
巻	155	掲載ページ (開始)	105445	掲載ページ (終了)	105445		
掲載論文DOI	10.1016/j.cities.2024.105445						
その他識別番号							
掲載確定		国際共著		オープン アクセス			
備考							

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)			発行年	2024 年	査読有無	有
論文課題	Inheriting housing inequality: Parental homeownership and place of origin as key factors for homeownership in Japanese metropolitan areas						
著者名	Ryo Fukuda, Kojiro Sho, Tetsuo Kidokoro, Hwajin Lim						
雑誌名	Cities						
巻	150	掲載ページ (開始)	105064	掲載ページ (終了)	105064		
掲載論文DOI	10.1016/j.cities.2024.105064						
その他識別番号							
掲載確定		国際共著		オープン アクセス			
備考							

【研究論文】

種別	論文集(書籍)内論文		発行年	2024 年	査読有無	有
論文課題	Housing Inequality and Community-Based Counteracting in a Deprived Community in Taipei, Taiwan					
著者名	Kojiro Sho, Tetsuo Kidokoro					
雑誌名	Neoliberal Policies and Inequality					
巻		掲載ページ (開始)	155	掲載ページ (終了)	164	
掲載論文DOI	10.4324/9781003280866-9					
その他識別番号						
掲載確定		国際共著		オープン アクセス		
備考						

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)	発行年	2024 年	査読有無	有
論文課題	Impact of high-speed railway on gentrification and regional inequality in Japan				
著者名	Sunbin Yoo, Junya Kumagai, Kojiro Sho, Shunsuke Managi				
雑誌名	Transportation Research Part D: Transport and Environment				
巻		掲載ページ (開始)		掲載ページ (終了)	
掲載論文DOI	10.1016/j.trd.2024.104346				
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)	発行年	2024 年	査読有無	
論文課題	Development of a street-by-street analysis of spatial factors in street crime using publicly available crime data by census block				
著者名	Atsushi Takizawa, Yoko Tanaka				
雑誌名					
巻		掲載ページ (開始)		掲載ページ (終了)	
掲載論文DOI	10.51094/jxiv.995				
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)	発行年	2025 年	査読有無	有
論文課題	居住者の近隣空き家に関する認識と自宅の将来意向に関する団地内格差：福岡都市圏における宗像市の郊外団地を事例に				
著者名	上杉昌也				
雑誌名	都市地理学				
巻	20	掲載ページ (開始)		掲載ページ (終了)	
掲載論文DOI					
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(研究会, シンポジウム資料等)	発行年	2024 年	査読有無	無
論文課題	不動産データベースからみるミクロスケールの社会経済的セグリゲーションの変化				
著者名	上杉昌也				
雑誌名	地理情報システム学会講演論文集				
巻	33	掲載ページ (開始)	C1-03	掲載ページ (終了)	
掲載論文DOI					
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)			発行年	2024 年	査読有無	無
論文課題	Rescaling Urban Poverty: Homelessness, State Restructuring and City Politics in Japan (book review)						
著者名	Johannes Kiener						
雑誌名	European Journal of Homelessness						
巻	18	掲載ページ (開始)	307	掲載ページ (終了)	311		
掲載論文DOI							
その他識別番号							
掲載確定		国際共著		オープン アクセス			
備考							

【研究論文】

種別	研究論文(研究会，シンポジウム資料等)		発行年	2024 年	査読有無	
論文課題	特許データを用いた日本における技術地域の特徴把握					
著者名	鎌倉 夏来，パエザゴンザレス セバスチャン					
雑誌名	日本地理学会発表要旨集					
巻	2024s	掲載ページ (開始)	134	掲載ページ (終了)		
掲載論文DOI	10.14866/ajg.2024s.0_134					
その他識別番号						
掲載確定		国際共著		オープン アクセス		
備考						

【研究論文】

種別	研究論文(その他学術会議資料等)	発行年	2024 年	査読有無	無
論文課題	新型コロナウイルス感染症流行前後の開業率でみる東瀬戸内経済圏の特徴				
著者名	福田 峻				
雑誌名	マンスリーレポート				
巻	47	掲載ページ (開始)	12	掲載ページ (終了)	17
掲載論文DOI					
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)	発行年	2024 年	査読有無	有
論文課題	基本単位区人口統計による小規模都市的地域の抽出とその特性の分析				
著者名	福田 峻				
雑誌名	日本建築学会計画系論文集				
巻	89	掲載ページ (開始)	1056	掲載ページ (終了)	1064
掲載論文DOI	10.3130/aija.89.1056				
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)	発行年	2025 年	査読有無	有
論文課題	Mapping the endogenous drivers of mega-urbanisation in contemporary urban development				
著者名	Xinqin Liu, Runzhu Gu, Sujit Kumar Sikder, Zhiqiu Xie, Chika Takatori, Xiaoping Xie				
雑誌名	Journal of Urban Management				
巻		掲載ページ (開始)		掲載ページ (終了)	
掲載論文DOI	10.1016/j.jum.2025.01.001				
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)		発行年	2024 年		査読有無	有
論文課題	Urban Dynamics and their Implication on Greenness Trends: A 25-Year Retrospective Study of the Changing Face of Tokyo Metropolitan Area						
著者名	Wang QING, Chen ZONGYANG, Chika TAKATORI						
雑誌名	Environmental and Sustainability Indicators						
巻	100427	掲載ページ (開始)		掲載ページ (終了)			
掲載論文DOI	10.1016/j.indic.2024.100427						
その他識別番号							
掲載確定		国際共著		オープン アクセス			
備考							

【研究論文】

種別	研究論文(研究会, シンポジウム資料等)		発行年	2024 年	査読有無	
論文課題	群集分析への人流データの活用可能性に関する研究 亀岡花火大会を対象として					
著者名	町田葵, 青木嵩, 横田隆司, 伊丹絵美子					
雑誌名	日本建築学会 近畿支部研究報告集					
巻	64	掲載ページ (開始)	89	掲載ページ (終了)	93	
掲載論文DOI						
その他識別番号						
掲載確定		国際共著		オープン アクセス		
備考						

【研究論文】

種別	研究論文(研究会, シンポジウム資料等)	発行年	2024 年	査読有無	
論文課題	位置情報ビッグデータからみた無人駅活用の利用実態				
著者名	加治佳樹, 伊丹絵美子, 青木嵩, 横田隆司				
雑誌名	日本建築学会 近畿支部研究報告集				
巻	64	掲載ページ (開始)	77	掲載ページ (終了)	80
掲載論文DOI					
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	論文集(書籍)内論文	発行年	2024 年	査読有無	
論文課題	福岡市の都市空間構造からみた外国人向けの受入インフラの発展過程				
著者名	コルナトウスキ ヒェラルド				
雑誌名	阿部康久・磯望・芳賀博文（編著）『地理学視点の福岡：都市圏成長の背景：福岡地理学会設立75周年記念出版』、花書院				
巻		掲載ページ (開始)	189	掲載ページ (終了)	200
掲載論文DOI					
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	論文集(書籍)内論文	発行年	2024 年	査読有無	
論文課題	“ ‘ Positive Non-policy: ’ Homeless Services and Transitional Rehousing Initiatives in Hong Kong and Malaysia ”				
著者名	Kornatowski, G. & Ching, C.				
雑誌名	, in: Bevan C. (ed.) The Routledge Handbook of Global Perspectives on Homelessness, Law & Policy, Abington: Routledge				
巻		掲載ページ (開始)	405	掲載ページ (終了)	429
掲載論文DOI					
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究論文】

種別	研究論文(学術雑誌)	発行年	2025 年	査読有無	
論文課題	香港における社会的住宅の進展状況「コミュニティ・リビングルーム」事業を中心に				
著者名	ヒェラルド・コルナトウスキ				
雑誌名	インクルーシブシティ				
巻		掲載ページ (開始)	17	掲載ページ (終了)	18
掲載論文DOI					
その他識別番号					
掲載確定		国際共著		オープン アクセス	
備考					

【研究データ】

種別					
	公開	共有	非共有・非公開	期限付き公開予定	総数
管理対象データ	件	件	件	件	0件

【その他の業績】

<div>その他の業績 (自由記述欄)</div>	<p>本研究プロジェクトでは、2024年度に3回の海外ゲストによる公開国際セミナー、1回の海外ゲストを含む国際シンポジウムを開催している。</p>
-------------------------------	---